

我国の日常食事における食品の栄養機能を求めて 第6報
 (女子大学生の栄養摂取状態評価に関する身体各部計測値の検討)
 鎌倉女大家政 ○山東せつ子 浦川由美子 岡田史子

目的 青年期女子の日常食摂取状況調査の過程で、平均エネルギー充足度は常に1以下であり肥満防止の配慮が認められ、栄養素充足度の個人値で低栄養を示す者も少なくなかった。以上の背景から、対象の身体状況と食事傾向の関係を解明する第一歩として、身体各部計測値の検討を試みた。

方法 1. 対象：本学家政学専攻学生、年齢18~20才、403名。対象は家族の中における自己の食事摂取状態調査を1988~1989年の夏冬2回に亘り済ませている。2. 身体計測の時期：1989年11月上旬。3. 項目：身長(H)、体重(W)、胸囲(CC)、頭囲(HC)、上腕囲(UAC)皮下脂肪厚(上腕三頭筋部(TS)および背部肩甲骨下部(SS))の計測と、それらより導かれる上腕筋肉面(UAM)、上腕脂肪面(UAF)、上腕筋肉率(%M)、体脂肪率(%SF)、Body mass index(BMI)、肥満度(OR)等を計算した。4. 得られた値を文献値により検討した。

結果 平均値±標準偏差による各部計測値等は下表のとおりであった。

H(cm)	W(kg)	CC(cm)	HC(cm)	UAC(cm)	TS+SS(mm)
158.1±5.40	52.4±6.71	81.9±6.06	55.4±1.50	24.4±2.06	40.2±11.66
UAM(mm ²)	UAF(mm ²)	%M(%)	%SF(%)	BMI	OR(Broca)
2558±366	2271±671	52.5±8.02	27.6±7.93	21.0±2.42	-9.4±10.92

身長、体重は厚生省値と有意差はみとめられず、皮下脂肪厚は厚生省判定基準によると「ほぼよい」、体脂肪率は「境界」、標準体重による肥満度では±10%の「正常」範囲内にあり、BMIも正常であった。上腕囲、上腕筋肉面はUSA値より低いことが認められた。